

2022年5月1日から2026年3月31日に、当院で不妊治療を受けられた方へ

研究実施のお知らせ

研究の題名：超音波を用いた子宮の評価による不妊症及び妊娠転機への影響についての研究

研究期間：研究機関の長の許可日～2027年3月31日

研究責任者：山梨大学医学部附属病院 産婦人科学講座 准教授 吉野修

山梨大学医学部では、上記課題名の研究を行います。「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」（令和4年4月1日施行）に基づき、加工された情報の研究利用について、以下に公開いたします。

【研究の目的と意義について】

子宮は月経周期の中で、骨盤の中で角度を変えている可能性があると考えられています。角度が変化することは、月経期には月経血が凝血塊を作りやすいように、排卵期には精子が子宮内に進入しやすいように、着床期には受精卵が着床しやすいように、というように、意味があるのではないかと考えています。また、子宮は多くは風船のような楕円形をしています。外観がハート型をしていたりと様々なバリエーションがあります。形態によっては不妊症の原因となったり、妊娠合併症が発症しやすかったりするとされています。これらはいずれも超音波で評価が可能です。

しかしこれらについては、過去の検討はごくわずかであり、わかっていない点が多いというのが現状です。今回の研究は、超音波検査で多面的に子宮の評価をすることで、不妊症治療及び妊娠出産の転機にどのような因子が影響があるのかを知ることが目的です。

【研究の方法について】

不妊外来及び妊婦外来では、画像検査として超音波健診を行います。通常診療のために画像データを保存しております。その画像データを用いて子宮について評価し、不妊症治療および妊娠転機についてデータ化し、統計学的な検討を行います。

【利用する試料・情報について】

〈対象となる患者さん〉

2022年5月1日から2026年3月31日に当院で不妊外来を受診される方が対象です。

〈利用する情報・項目〉

情報：診療録情報、検査データ

試料：該当しない

なお、この研究に必要な臨床情報は、すべて診療録より取り出しますので、改めて患者さんに行っていないことはありません。

【試料・情報を利用する者の範囲について】

この研究において取得する情報の利用者は、本学医学部産婦人科講座の研究者のみです。

【試料・情報の管理に関して責任を有する者について】

国立大学法人山梨大学

【個人情報の取扱いについて】

収集したデータは、誰のデータか分からないように加工した上で、統計的処理を行います。国が定めた倫理指針（「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」）に則って、個人情報を厳重に保護し、研究結果の発表に際しても、個人が特定されない形で行います。

【お問い合わせ等について】

この研究へのご協力は、患者さんご自身の自由意思に基づくものです。この研究への情報提供を希望されないことをお申し出いただいた場合、その患者さんの情報は利用しないようにいたします。ただし、お申し出いただいた時に、すでに研究結果が論文などで公表されていた場合には、完全に廃棄できないことがあります。情報の利用を希望されない場合、あるいは不明な点やご心配なことがございましたら、ご遠慮なく下記連絡先まで、メール又はFAXにてご連絡ください。この研究への情報提供を希望されない場合でも、診療上何ら支障はなく、不利益を被ることはありません。

また、患者さんや代理人の方のご希望により、この研究に参加して下さった方々の個人情報および知的財産の保護や、この研究の独創性の確保に支障がない範囲で、この研究の計画書や研究の方法に関する資料をご覧いただくことや文書でお渡しすることができます。希望される方は、以下までメール又はFAXにてご連絡ください。

〈お問い合わせ等の連絡先〉

山梨大学医学部附属病院 産婦人科学講座

准教授 吉野修

メールアドレス: oyoshino@yamanashi.ac.jp

FAX:055-273-1113